

ラグビーフットボールプレースキックの成績に及ぼす指導効果
Coaching Effect on Result of Rugby Football Placekick
1K03B119-8 高橋 正資

指導教員 主査 作野 誠一 先生 副査 吉永 武史 先生

【緒言】

多くのラグビーフットボールのコーチングについて書籍が存在するが、それは指導者の技術を紹介するものが多くを占めている。しかし、ラグビーフットボールは選手間のコミュニケーション、選手とコーチとのコミュニケーションが密接でなければ機能せず、選手とコーチの間に存在する「間」を考慮に入れた指導方法は科学されてこなかった。その中でも特に指導書が少ないものの一つがキック指導である。従来キックはキッカーと呼ばれるものが主にするものであったが、近年キッカーだけでなく、全てのプレーヤーが効果的に前線に陣地を進めるためにキックを用いようと試みている。日本ラグビーが今後発展するためには体格差などが関係なく、試合を効果的に支配できるキック攻撃による展開が必要である。

本研究の目的は、さまざまなキック攻撃を正しくコーチが選手に指導することによって、欧米にも負けないラグビーの指導法を確立するための基礎資料を得ることである。

【研究方法】

今回の研究を行うにあたって、事前に調査すべきことがあった。まず、多くキック方法の中から評価、測定すべきキック法はなにであるか、また先行研究があまりなされていない分野において、なにを基準として評価するのか基準値を求める必要があった。そのため、高校生を対象として上記の課題点に一定の基準を設けた。

調査は、高校ラグビー部約 60 名を対象に行い、キックの難易度を変えて測定する、コーチの指導法を変えて成績を分析する。コーチが一对一で指導する場合と複数の選手を指導する場合では、プレースキックの成功率に変化が見られるのかを調査した。また、それと並行して指導者に対する満足度を調査し、結果と満足度にいかなる相関関係が存在するのかを調べた。

【結果と考察】

① 集団指導について

集団指導は個別指導に比べてコーチの影響が組織に全体に影響をもたらす、一人の選手に対する賞賛や叱責が組織全体に浸透することがわかった。全体としては、個人指導と比べて、成功率は低かった。また満足度にそれほど大きな差異は生じなかったが、皆が不満に思う指導が満足に思う指導に分かれる傾向が多く、個々がそれぞれ似通った成績と満足を示すことがわかった。

② 個別指導について

集団指導よりもコーチの影響を受けやすく、一日ごとに大きく成績が変動することがあった。全体としては、集団指導よりも成功率が高く、個人指導は難易度が易しければ、短期間で飛躍的に指導効果がでるという特徴があった。また、指導法による満足度には大きな違いが生じ、成績が上がっているにもかかわらず自分に対する評価は納得いかないという傾向があり、指導法が違ふことで選手のモチベーションに大きな違いが見られた。

③ 指導法に対する満足度

賞賛、叱責、無視という 3 つの指導態度を指導者に演技させ、選手と指導者の関係にそれぞれ違いを出した。選手は指導者に対して満足と答えたのは、集団指導でも個人指導でも賞賛演技の指導を受けた選手に多かった。反対に不満と答えたのは、集団指導でも個人指導でも無視をされた選手が多かった。叱責の指導は意外にも不満であると答えた選手は少なく、中間的な意味の「普通」と答えた選手が多かった。

【まとめ】

指導方法、指導形態を変えることで選手の成績やモチベーションも異なり、選手の特性を生かした効果的な指導が展開できることが明らかになった。

しかし、選手、組織の持つ特性を把握しなければ、コーチの存在や指導法がマイナスの結果をもたらす場合もあることが興味深い。指導者が自己満足な指導をしたからといって、選手の成績が上がるわけではなく選手とコーチの関係は中立的な関係が求められるのではないだろうか。ラグビーフットボール指導者は、選手がなにを考え、自分の指導が選手にどのような影響をもたらすのかを考慮する必要がある。

【今後の研究課題】

今回の研究では対象が全て高校生だったため、経験を積んだ選手に対してはどのような指導法がなせれるべきなのかは、明らかになっていない。

今後は、選手の経験値も加味し選手の成績や指導者に対する満足度を評価することが、指導法に大きな広がりを見せると考えられる。